

第1部

金沢大学<sup>人間社会学域
学校教育学類</sup>附属幼稚園
第56回教育研究会に向けて

第1章 平成21年度の研究について

西多 由貴江

1. 研究テーマ

学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて

～協同して生活する姿を見つめて～

2. テーマ設定の理由

(1) 幼児教育の今日的課題

平成17年1月に中央教育審議会から「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた、今後の幼児教育の在り方について」の答申が出された。この答申では子どもの育ちに係る今日的課題を受け、今後の幼児教育の在り方として、①家庭・地域社会・幼稚園等施設の三者による総合的な幼児教育の推進、②幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実という二つの方向性が示された。その後、平成18年12月には教育基本法、平成19年6月には学校教育法が改正された。

また、平成20年3月には幼稚園教育要領が改訂され、平成21年度から全面実施となった。新しい幼稚園教育要領はこれまでの幼稚園教育の基本的な考えは引き継ぎ、そのうえで内容の充実を図るとされている。改訂のポイントとして「発達や学びの連続性」「協同する経験の積み重ね」「言葉による伝えあいの充実」「表現する過程の重視と自己表現が楽しめる工夫」「思考力の芽生えを培う」「規範意識の芽生え」などが挙げられる。

本園でもこれまで、幼児の姿を見つめて研究を進める中で子どもの育ちに係る今日的課題と多くの類似点があった。そこで3歳児から5歳児の育ち、そして、小学校以降の生活をも視野に入れたカリキュラム編成を目指し、日々保育実践を行っていくことが必要であると考ええる。

(2) これまでの研究

上記のような国が進める教育改革の一方で、本園では平成16年度から3年間をかけて、幼児が幼稚園生活の中でどのようなことを学んでいるのかという点に関心を持ち研究を進めてきた。この研究で、幼児らは遊びを通して様々なことを学んでいることが明らかとなった。そこで幼児のこの多様な「学び」を本園のカリキュラムに反映させたいと考え、平成19年度からの2年間は「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」をテーマに掲げ研究を進めてきた。(資料1参照)

この研究で、幼児一人一人の「自己表現のあり方」や遊びの中での「思考する姿」を視点とした幼児らの5才児までの3年間の育ちの特徴をつかむことができた。(資料2、資料3参照)しかし、テーマとして掲げてきたカリキュラム編成にはまだ生かしていない。

上記してきたように幼児教育の今日的課題の面から、またこれまでの本園の研究の経緯から、今年度も引き続き、「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」を研究テーマに掲げることにした。

・資料1

「学び」について

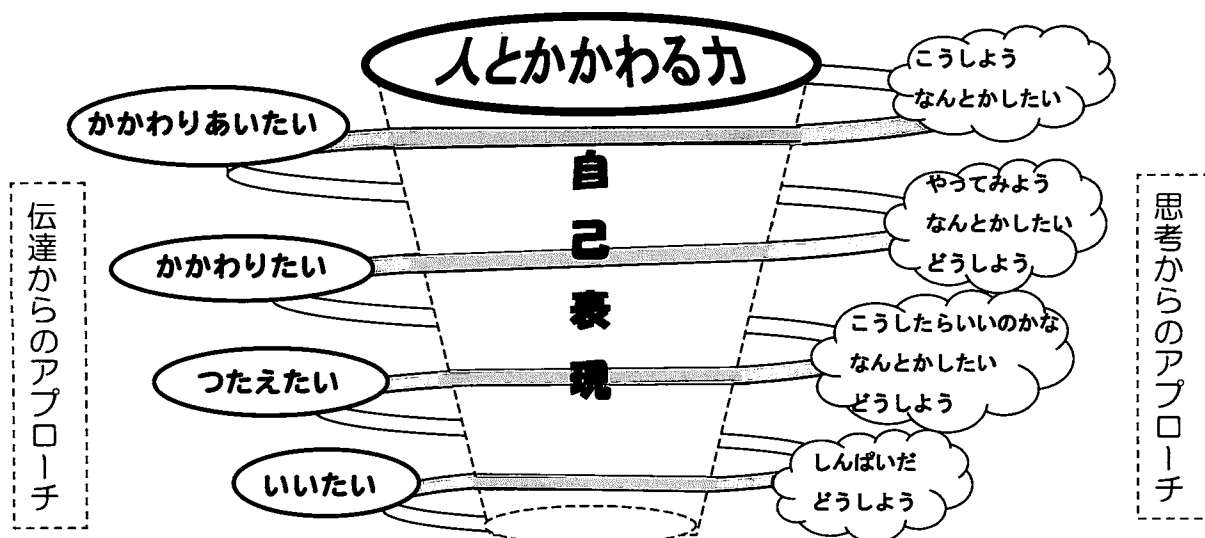
本園の紀要第51集において、「学び」を「経験内容を自分の中に取り入れるプロセスそのもの」と捉えてきた。その翌年には、「経験内容を自分の中に取り入れながら、認識が変化したり、理解が深まったりしていくこと」とさらに発展させて理解してきた。その際、「学び」はあくまでも「学んでいるプロセス」と捉え、そのプロセスにおいて体得したものや経験した事柄などを「学んだこと」として位置づけてきた。

・資料2 (第54集金沢大学附属幼稚園研究紀要参照)

平成19年度「学びをつなぐカリキュラムの編成に向けて」
～一人一人の自己表現をみつめて～

幼児一人一人の自己表現のあり方を探ることを課題として追求し、幼児一人一人の自己表現のあり方には、「伝達からのアプローチ」「思考からのアプローチ」の二つのアプローチがあると捉えた。そして以下のような模式図に表記するに至った。

〈一人一人の自己表現のあり方〉



実際2つのアプローチは常に表裏一体であり、どちらも幼児期には大切である。教師はついつい言葉で表れる伝達からのアプローチの自己表現に目が向きがちだが、人とかかわる力を育む為には、見えない思考からのアプローチにおける表現のあり方にも心をくだかなければならないことを確認するに至った。

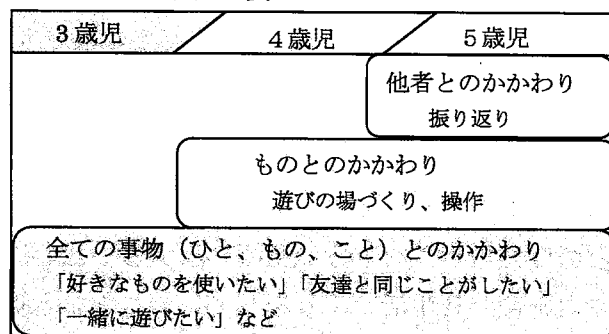
・資料3 (第55集金沢大学附属幼稚園研究紀要参照)

平成20年度「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」

～幼児の思考する姿を見つめて～

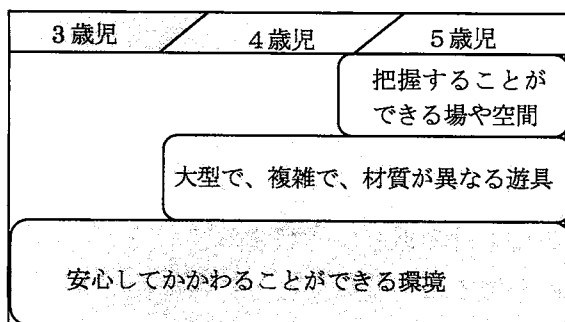
幼児らの遊びの中でどのような思考をするのか、その姿を探ってきた。その中で、幼児の思考する姿には次のようなおおよその学年ごとの特徴があることが見えてきた。

<幼児の思考する姿>

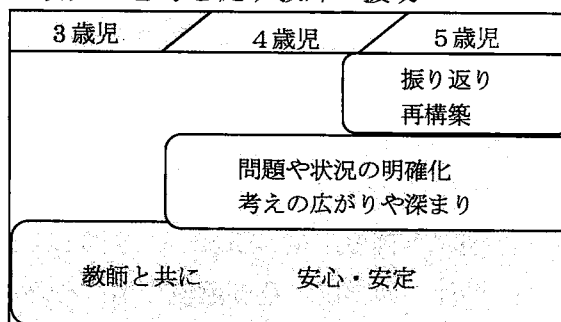


また、それらの幼児の思考を促す環境の構成と幼児の思考を促す教師の援助にも、学年の特徴があることが明らかとなった。

<幼児の思考を促す環境の構成>



<幼児の思考を促す教師の援助>



3. サブテーマ設定の理由

平成20年度の本園の事例検討会の中で、下記のような気になる幼児の姿が浮き彫りになってきた。

- ・はっきりしない混沌とした状況を好まず、自分の気持ちをごまかし、友達に思いを伝えようとならない幼児
 - ・自分の弱さに向き合うことができない幼児
 - ・教師や友達に自分の弱さを見せることができない幼児
 - ・いざこざと向き合うことが苦手で、いざこざになる前にあきらめたり、その場を離れたりしてしまう幼児
- などである。

上記のような姿から、幼児らの友達とのかかわりが希薄になっている事例が目立つようになってきたと感じられた。このようなことでは、友達と向き合いながら生活をつくっていく姿にはつながらない。

そこで、幼児らが友達とかかわり合いながら生活していく姿に着目して、サブテーマ「協同して生活する姿を見つめて」と設定した。

サブテーマとした「協同して生活する」とは、本園のこれまでの研究の積み重ねの中で、「経験内容の異なる幼児らが自分らしさを十分に発揮しながら、互いに揺さぶり合い、互恵的に学びながら友達と心や力を合わせ生活づくりをしていくこと」と捉えている。

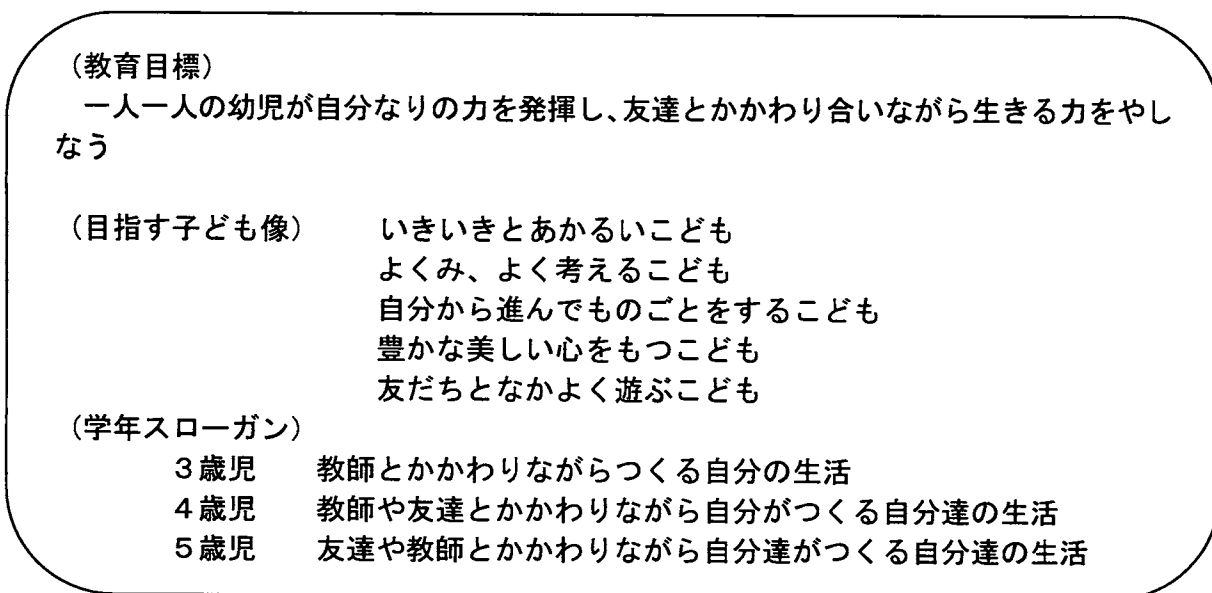
4. 研究の目的

- ・年齢の特徴をふまえ、幼児らが自らかかわり合い、協同して生活する姿を探る
- ・本園の平成16年度版教育課程を見直し、再編成する

5. 研究の方法

- (1) 事例を収集する
- (2) 事例を考察する
 - ・幼児が自らかかわり合い、協同して生活する姿を読み取り、考察する
 - ・幼児らの学び、及び環境の構成や教師の援助を探る
- (3) 1年を振り返り、協同して生活する姿から見えた幼児らの学び、協同する姿を促す環境の構成、協同する姿を促す教師の援助についてまとめる
- (4) 平成16年度版教育課程を見直し検討する

6. 研究の全体構想



教育課程・指導計画

平成22年度研究テーマ
学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて
～協同して生活する姿を見つめて～

平成20年3月
幼稚園教育要領改訂

平成19年6月
学校教育法改正

平成18年12月
教育基本法の改正

平成17年1月
中央教育審議会答申が出される
「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」

平成19年度から平成20年度
学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて
～一人一人の自己表現を見つめて～（一年次）
～幼児の思考する姿を見つめて～（二年次）

平成16年度から平成18年度
幼児の学びを探る
～体で感じるということ～（一年次）
～四つの側面を通して～（二年次）
～社会的側面の学び～（三年次）

平成15年度
教育課程の再編成

平成14年度
「友達とかかわり合いながらつくる生活プラン」作成